

犬の手を借りた観光振興 持続、発展へ試される知恵

2018年の秋田県の外国人宿泊者数は12万3430人だった（観光庁まとめ）。過去最多となったとはいえ、都道府県別では下から数えた方が早い。多言語対応の遅れや2次アクセスの不便さが課題となっているためだが、それでも県内を見渡せば、特徴的な資源とチャンスを生かそうという動きが出てきている。

特筆したいのが秋田犬に着目した観光振興だ。秋田犬は18年、平昌（ピョンチャン）五輪フィギュアスケート女子金メダリストのアリーナ・ザギトワ選手に贈られたことで世界的な話題となった。秋田犬を目当てに「本場」である秋田県を訪れる国内外の観光客が増え、忠犬ハチ公の古里である大館市の「秋田犬会館」では、18年の有料入館者が17年のほぼ2倍に当たる1万9691人を数えた。

県内には現在、大館市内外に10を超える「秋田犬に会えるスポット」があり、それぞれに人気を博している。18年には秋田犬の保護やブリーダーの養成を図る民間団体も発足し、秋田が誇る地域資源として大切にしていこうという機運が高まっている。

ザギトワ選手への秋田犬プレゼントに先立つ16年には、大館市と周辺3市町村が官民で地域連携DMO（観光地域づくり法人）を立ち上げている。「秋田犬ツーリズム」の法人名の通り秋田犬を前面に出しつつ、4市町村の観光スポットを巡るツアーを提案するなどした結果、4市町村合計の外国人宿泊者は18年に初めて1万人を突破した。

秋田犬を巡っては、リチャード・ギア主演のハリウッド映画「HACHI 約束の犬」公開（09年）、ロシアのプーチン大統領への秋田犬贈呈（12年）の際も話題になった。この時もブームに乗ろうとする動きはあったが、地域資源として活用する取り組みはいまほど活発ではなかった。犬の手を借りてつかんだ飛躍への兆しを、どう持続、発展させるか。県民の知恵がこれからも試される。

秋田魁新報社 営業部長（企画担当） 高野正巳



クルーズ船で秋田港に到着し、出迎えた秋田犬と写真を撮る外国人観光客＝19年4月